

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

夏休み、わたしは一人で、山のふもとにあるおばあちゃんの家にとまりに来た。
着いてすぐに、わたしはがっかりした。近くにはお店が一けんもなく、テレビもあまり見られない。
ゲーム機を持ってくるのもわすれてしまった。

「つまらないなあ。早く帰りたい。」

えん側でねころんでいると、おばあちゃんが麦茶を持ってきてくれた。

「夜になったら、いいものを見せてあげるよ。」

夕ご飯のあと、おばあちゃんは家の明かりを全部消した。まっ暗になると、外から、りいりい、ころろと、たくさんのお虫の音が聞こえてきた。うるさいなあ、とわたしは思った。

「ほら、上を見てごらん。」

庭に出て空を見上げたわたしは、息をのんだ。空いっぱい、星がこぼれそうなほど光っていた。

家の近くで見る空とは、まるでちがう。

「星って、こんなにたくさんあったんだ。」

「ずっとあったんだよ。町の明かりで見えなかっただけさ。」

おばあちゃんとならんで、わたしは長い間、空を見上げていた。さっきまではうるさいだけだった虫の声も、今は星の光に合わせて歌っているように聞こえた。

ねる前に、わたしはおばあちゃんに言った。

「あしたの夜も、いっしょに見ようね。」

(この問題のための書き下ろし)

問一 おばあちゃんは、わたしにこれまで星が見えなかったわけを何だと言っていますか。本文から十字まで書きぬきましょう。

町	の	明	か	り					
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

問二 わたしが、着いてすぐにながかりしたのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア おばあちゃんが、家にいなかったから。

イ お店もなく、テレビやゲームで遊ぶこともできなかったから。

ウ 虫の音がうるさくて、ねむれなかったから。

イ

問三 「今は星の光に合わせて歌っているように聞こえた」とありますが、虫の聞こえ方が変わったのはなぜですか。四十五字まで書きましょう。

星	空	に	心	を	動	か	さ	れ	、
つ	ま	な	い	と	思	っ	て	い	、
き	だ	な	か	の	夜	を	、	す	て
っ	た	か	ら	感	じ	る	よ	う	に
た	か	ら	。						

問四 この物語で、わたしの気持ちはどのように変わりましたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア はじめから楽しみにしていたが、星が少なくてがっかりした。

イ おばあちゃんの家がこわくなり、早く帰りたくなった。

ウ はじめはつまらないと思っていたが、いなかの夜のよさに気づき、また見たいと思うようになった。

ウ

【小5】国語 文章問題 物語文 4 答えと解説

問一（二十五点） 答え：町の明かり

解説：おばあちゃんの「町の明かりで見えなかつただけさ」という言葉から。

問二（二十五点） 答え：イ

解説：二つ目のまとまりから。アは本文と合わない。ウの虫の声は夜の話で、着いてすぐのことではない。

問三（二十五点） 答えの例：星空に心を動かされ、つまらないと思っていたいなかの夜を、すてきだと感じるようになったから。

解説：「息をのんだ」「まるでちがう」から、星空に強く心を動かされたことが分かる。そのあとで虫の声の聞こえ方も変わっている。二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

- ①空いっぱいの星を見て、心を動かされた（おどろいた）
- ②つまらないと思っていたいなかの夜を、よいものだと感じるようになった

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：はじめは「早く帰りたい」と言っていたが、最後は「あしたの夜も、いっしょに見ようね」と言っている。ア・イは本文と合わない。